

平成 29 年度 ピアサポート研修開催される

平成 29 年 10 月 25 日、長野市若里市民文化ホールにて、ピアサポート研修が開催されました。毎年、長野県ピアサポートネットワークが主催で、ピアサポーターになりたいという方、家族、支援者、広く学ぶ機会として開催しています。今回は NPO 法人ポプラの会も共催して、国連障害者権利条約を深く学ぶ機会となりました。

講師は昨年も NPO 法人ポプラの会で講演会講師をお願いした藤井克徳氏です。

藤井氏は、NPO 法人日本障害者協議会 (JD) 代表、きょうされん専務理事として、長年日本の障害者運動のリーダーとして牽引されてきて、権利条約の批准の実現化に尽力くださってきました。

昨年のポプラの会講演会では、昨年 6 月に起こった津久井やまゆり園の事件を受けて、私達が何を指針にしていけば良いのだろうかと思った時に、藤井氏に講師をお願いしようと実現したものです。今回も藤井氏が常に「北極星」と言われている権利条約について学びました。

藤井氏の第一部講演では、障がいのある人の支援の水準をとらえる 4 つの物差しを挙げられました。

{詳細は記録をご参照ください}

印象に強く残ったのは、私達が障害者として「特別扱いをして欲しい」という訳ではなく、「ひとりの人間として当たり前で暮らしていきたいと願い」をもっているといいのだということです。

障がいの無い人には、当たり前でされることでも、障がい故に損なわれていることが、現実にあります。権利条約の中にも 35 回「他(た)の者との平等」として出てきます。そう願っていいんだと思えると、気持ちが楽になります。障がい故に諦めることも多いのですが、そこを考えなおして、現実検討してもいいのだと思えました。

障がいのある私たちも学びながら、力を併せていかなければならないのだと改めて強く思いました。



第一部講演会 講師 藤井克徳氏

第二部のパネルディスカッション

石田さんの「願う力」、広沢さんの「伝えながら運動する」、宮尾さんの「障害がある当事者同志の情報交換をしてきた」、三浦氏の「医療現場にもピアサポートの風穴を開けたい」、大堀氏の「当事者自らが問題意識をもって活動していきたい」というメッセージがありました。

藤井氏にファシリテーターを務めて頂き、「困った時には集まろう。ひとりの行いが思いもよらない渦を

作ります」とエールを頂きました。質疑応答では会場から障害特性に合わせた支援について、ピアサポーターになるには、等の質問意見がありました。

会場がとても温かな包まれたような雰囲気でした。

私たちが学びながら、お互いに支え合いながら、権利条約を読み力をもらってまた進んでいきたいと思っています。



パネルディスカッションの様子

当日までの準備をしてくださった皆さま、当日、参加してくださった皆さま、きょうさい団体、後援をしてくださった皆さま、ボランティアとしてご支援を賜った皆さま、長野市デフネット様、皆さまに心より感謝申し上げます。詳細な記録は社会福祉法人絆の会あんだんて職員の阿部志保さんによります。今後も普及啓発に活用させていただきます。ありがとうございました。

今後も皆さまと学びや活動、運動など一緒させて頂くたく存じます。

ポプラの会の HP をお借りして、皆さまに御礼申し上げます。

また来る 2018 年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責 長野県ピアサポートネットワーク 大堀尚美)

- 添付 ① ピアサポート研修 記録 第一部 講演会
② 第二部 パネルディスカッション
③ 皆さんのアンケート集約